令和６年 11 月

川原代小学校PTA役員と龍ケ崎市教育委員会事務局との意見交換会のご報告

川原代小学校の教育環境について意見交換会を行いました

川原代小学校は児童数が減少しており、これからも減っていく見込みであることから、少子化に伴う児童の教育環境の現状や課題などについて説明を行うとともに、PTA 役員の方や地域団体の代表の方と学校活動を活発にしていくための考えなどについて、平成２３年度から意見交換会を実施しています。１１月５日に行ったＰＴＡ役員との意見交換会について、保護者の皆様にお知らせします。

小規模校には小規模の良さがあります

小規模校には以下のようなメリットがあります。

・一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい
・意見や感想を発表できる機会が多くなる
・様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる
・異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる
・地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい
・児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる

小規模校の課題は？

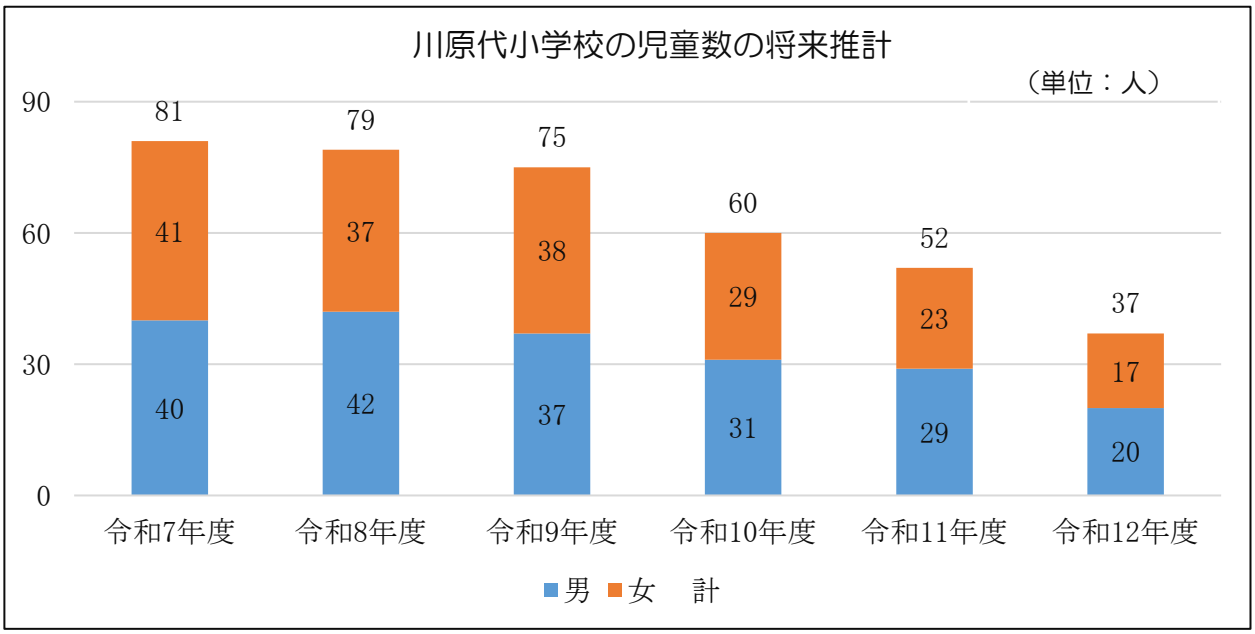
学級数や児童数が少なくなること等により、下記のような課題が生じる可能性があります。

〇学級数が少ないことによる学校運営上の課題
・クラス替えが全部又は一部の学年でできない
・クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
・男女比の偏りが生じやすい
・体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる

〇学校運営上の課題が児童生徒に与える影響
・集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につきにくい
・児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
・協働的な学びの実現が困難となる
・進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある

※公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き（平成27年1月27日文部科学省）より抜粋

【問い合わせ先】
龍ケ崎市教育委員会事務局教育総務課
TEL　0297-64-1111（内線 290・291）



【推計条件】

- 令和６年４月１日までの川原代小学区の出生者数を使用、学級種（通常の学級、特別支援学級）の区分は考慮しない。
- R7 以降の新入生について、きょうだいが在籍する場合は、きょうだい在籍校に入学するものとして試算
- きょうだいが在籍していない場合は、通学距離により川原代小と馴柴小に振り分けて試算

【推計結果】

- 令和 11 年度以降は複式学級が見込まれる。令和 12 年度以降には複数の複式学級が見込まれる。

主な質問やご意見

【質問と回答】

Ｑ１：複式学級は、どのような授業形態になるのですか。

Ａ１：一般的には、１つの教室の中で、１人の先生が２つの学年を交互に教えることになります。

Ｑ２：児童数の少なさを理由に、馴柴小学校へ指定校を変更することは可能ですか。

Ａ２：少人数を理由とした指定校変更はできません。指定校を変更するには、指定校とは別に近い学校があったり、指定学校に特別支援学級がないこと等の一定の理由が必要です。

Ｑ３：小規模特認校を創ることはできますか。

Ａ３：教育委員会では、国の適正規模適正配置の基準を踏まえ、小規模校は統合することで、子どもたちにとってよりよい教育環境を整備していくことを基本的な考え方としており、小規模特認校を創る予定はございません。

Ｑ４：保護者が統合に賛成しても地域の方が反対したら統合は進まないのでしょうか。保護者より地域が反対しているように感じます。

Ａ４：「子どもファースト」を考えており、まずは子どもの教育環境を第一に思っている保護者の意見を優先したいと思っております。しかしながら、学校は地域の拠点でもあるので、地域の方の意見は尊重します。

【意見】

- 個人的には複式学級は嫌だなと思っています。また、登下校班が心配で、近所に子どもがあまりいないので、一人になることが心配です。
- 学年関係なく仲良くできているのは川原代小学校の良い面ですが、争いごとがあると逃げ場がない状況です。
- 川原代小学校卒業後、中学校にうまく馴染めない子もいました。
- 少人数で子どもの個性に応じた丁寧な対応に魅力を感じたので川原代小学校を選びました。
- 複式学級になってしまうタイミングが統合するタイミングなのかなと思います。
- 先生の意見や、ここにいない保護者の意見もお聞きしたい。